

恵みと真理のニュース



2013年12月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

長い期間迫害を勝つように導いてくださり、
家庭福音化を成し遂げるようにくださった神様の恵みを賛美します。

私の実家はナクリスチャンで母は何の理由もなくいつも体の調子が悪かったです。そんな母を隣りの家に住む執事が伝道してイエス様のところに導いてくれました。教会に通い始めながら母の健康はよくなり熱心に信仰生活をしました。中学生だった私も母をつれて教会に通いました。祈りと賛美しながら礼拝をささげる事がとても好きでした。しかし父と姉と弟は教会に通いませんでした。歳月が流れて姉達と弟も結婚した後神様の恵みでイエス様を信じて信仰生活をしました。私も結婚をしましたが当時旦那の家庭と私の実家は生活環境があまりにも違いました。旦那の家庭は私の実家と比べられないほど豊かで学力も高くても最も偶像崇拜をする家庭でした。

一年12回祭祀があって、しかも旦那は長男でした。多くの反対を押して結婚した後、私は舅姑の密かに教会を通いながらまた、祭祀もしました。しかしいつかは私の祈りと願いの通りに神様だけを捧げる生活をするように神様が助けくださり摂理して下さることを信じました。

旦那は私に教会を続けて通うと離婚をすると言いました。その状況で舅も私が教会を通うことを知ってから暴言と悪口を吐きながら迫害をしました。そのときは信仰が弱い状態だったのでまず神様に強い信仰を持つように求めながらこの霊的な戦いで勝利するように祈りました。そんな私に神様は御言葉と聖霊で慰めと力を与えてくださって私はどんな酷い言葉を聞いても落団し否定的な考えはしないようになりました。

旦那と旦那の家族の救いのため祈りをする中で旦那の職場問題でソウルからインチョンに引越しをするようにしました。引越してインチョンで通う教会を捜すときに偶然に同じアパートに住む恵みと真理教会に通う区域長に出会いました。区域長の助けで恵みと真理教会に通うようになりました。その時が1999年ある日の水曜礼拝でした。

教会で礼拝を捧げてから出て帰るときには経験しなかった恵みの奇異な気分になりました。御言葉を通して初めて大きい恵みを受けただけでなく当會長牧師が私達のために切に祈ってくれるその声が長い間離れなかったのです。特に祈りの終わりのところに“あなたの信仰の通りになれよ。”と言った祝福が私の心に感動され家に帰って来ながら心で再びアーメンと言いながら答えました。過去になかった熱心ができて神様の御言葉の恵みを愛し祈りの答えを確信する中で教会生活がとても楽しかったです。以前は聞いてもよく分からなかった説教の御言葉が今は私に対する神様の声のように聞こえ私の主の限らない愛の手紙として読まれました。イエスキリストの贖いの恵みと真理に関する御言葉が私の心に近づきました。イエス様の十字架の血で私の罪を許してください永遠な命をください私を神様の子供をしてくださった恵み、神様の奇異で驚くべきその愛を日々深く悟り体験をするようになりました。信仰の胆力ができ勇気が出て今は密かに教会に通うことだけでなく毎週新しい恵みと真理のニュースがでるとこれを持って喜び心で旦那に読んであげてまた読みあげて福音を伝えるほど成長しました。旦那に教会へ一緒に行って牧師の説教を一度ぜひ聴いて欲しいと願いました。何日後教会に来た旦那も牧師の説教で大きい恵みと感動を受けました。

今は旦那と共に教会に行き来する足りが限りなく楽しくて礼拝をする時間が一番幸せな時間になりました。御言葉に従順して共に信仰を育ちました。そうするうち旦那が教会に通う事実を知った旦那の家族と親戚の迫害はもっと酷くなり、たまには私達に非難と蔑視の言葉もためらわずに言いました。それで私達の夫婦は決断を下しました。

“滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ／わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ”（詩篇 40：2）神様に委ね舅に大胆に福音を伝えて親戚の前でも“私達はイエス様を信じるのでもうこれから祭祀をなしと宣言しました。

私達の夫婦が共に決断を下すと神様は私達のことに入してくださり説利して下さいました。祭祀をされないことだけでなく神様だけを礼拝し捧げる環境と与件になるように摂理して恵みを与えて下さいました。マタイの福音書6章23節の“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。と御言葉の権能と真実さを深く体験するようになりました。

今まで旦那の家族問題だけでなく環境的に、経済的に様々な大きい小さい問題に直面するたびに私の罪を許すため十字架につけられ血を流されたイエス様の愛を考えながら忍耐と希望の中でいつも正しい選択をするように導いてくださった神様に感謝し神様に全ての栄光を捧げます。私の実家が物質的に豊かになって子供の問題にもっと執着して少し間主のところから離れた時もありました。しかし私の粘り強い伝導と祈りまた神様の恵みで今は“救いを得たことより大事な事はなく神様に礼拝し主のことに力を入れて生きる事が人生で一番幸せであることを悟り神様の前で真実に信仰告白をするようになりました。また、数年間それほど強く福音を拒斥した父親も私達がどんな状況でもいつも信仰を守り神様に感謝し誠実に最善を尽くすことを見ながら“今はあなた達の話だと全部聞かよ”と言ってイエス様を受け入れ熱心に信仰生活をしながらもっと神様に感謝を捧げます。“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」（使徒言行録16：31）は約束の御言葉の通りに私の家族で成し遂げられました。

与えてくださった全ての恵みに三社を捧げ私の主に私の心の深いところから出る賛美を捧げます。私達のためにときことに尊い御言葉をください祝福をくださる當會長牧師にも感謝を捧げます。相変わらず救いイエス様を愛し、もっと礼拝と伝道と奉仕に力を入れ万時か益となる神様の恵で清い義の道だけ力強く進みます。



【信仰コラム】

君の信頼どおりなれよ

“…、彼らに「わたしにそれができると信じるか」と言われた。彼らは言った、「主よ、信じます」。そこで、イエスは彼らの目にさわって言われた、「あなたの信仰どおり、あなたがたの身になるように」。すると彼らの目が開かれた…”（マタイによる福音書9：28-31）

人（ひと）が何（なに）を信（しん）じられる能力（のうりよく）は神（かみ）様（さま）がすべての人（ひと）に下（くだ）された恩寵（おんちよう）の中（なか）のひとつです。信（しん）じていることが不（ふ）可能（かのう）な人（ひと）はいません。ただ、信（しん）じない人（ひと）がいるだけです。才能（さいのう）と努力（どりよく）が人（ひと）の一生（いっしょう）に及（およ）ぼす影響（えいきょう）と結果（けっか）はすごく高（たか）いです。しかし、私（わたし）たちが留意（りゆうい）すべきことは信心（しんじん）が及（およ）ぼす影響（えいきょう）と結果（けっか）は彼（かれ）より甚大（じんだい）という事実（じじつ）です。

信頼（しんらい）の影響（えいきょう）は、この世界（せかい）だけでなく、死（し）の向（む）こうの生活（せいかつ）まで及（およ）ぼします。聖書（せいしょ）は私（わたし）たちに信頼（しんらい）が何（なん）であり、私（わたし）たちが信（しん）じる心（こころ）をどこにおけば、どのように持続（じぞく）するかを教（おし）えています。神（かみ）様（さま）は“君（くん）の信頼（しんらい）どおりなれよ”は言葉（ことば）を何（なん）度（ど）もしました。この言葉（ことば）には非常（ひじょう）に奥深（おくふか）い意味（いみ）があります。

“君（くん）の信頼（しんらい）どおりなれよ”は、イエス様（さま）の言葉（ことば）は私（わたし）たちが信（しん）じているのが現実（げんじつ）化（か）するという言葉（ことば）です。イエスの言葉（ことば）を正（ただ）しく理解（りかい）しなければなりません。人（ひと）が何（なに）を信（しん）じようと信（しん）じさえすればそのままなるとお話し（はなし）がありません。神（かみ）様（さま）に対（たい）する信頼（しんらい）がいなければなりません。もっと明確（めいかく）に言えば、神（かみ）様（さま）が啓示（けいじ）した約束（やくそく）の言葉（ことば）に対（たい）する信頼（しんらい）がいなければなりません。

神（かみ）がガリラヤ湖（こ）で人々（ひとびと）に福音（ふくいん）を教（おし）えて日（ひ）が暮（く）れて行（い）くとき弟子（でし）たちと一緒（いっしょ）に船（ふね）に乗（の）って、“私（わたし）たちが湖（みずうみ）のむこうに渡（わた）ってみよう。”しました。そして船（ふね）の裏側（うらがわ）で眠（ねむ）りになりました。弟子（でし）たちはまじめに櫓（やぐら）を漕（こ）ぎ、船（ふね）は湖上（こじょう）を滑（すべ）るように進（すす）みしました。数（すう）日（じつ）後（ご）、急（きゅう）に狂風（きやうふう）が吹（ふ）きつけ、怒（おこ）った波（なみ）が船（ふね）を呑（の）むようになり、船（ふね）が沈没（ちんぼつ）の危機（きき）に至（いた）るようになりました。弟子（でし）たちが“神（かみ）様（さま）、私（わたし）たちが死（し）ぬようになりなさい。”と叫（さけ）び、イエス様（さま）を起（お）こしたら、イエスが覚（さ）めて起（お）きて風（かぜ）と波（なみ）を叱（しか）って“静（せい）かだつと、静（しず）かきなさい。”言（い）うので直（ただ）ちに風（かぜ）と海（うみ）が穏（おだ）やかにになりました。神（かみ）が弟子（でし）たちに“あなたの信頼（しんらい）がどこにいるのか”しました。

イエスの弟子（でし）たちは今（いま）までイエスに沿（そ）って回（まわ）り、その話（はなし）の誠実（せいじつ）さと権能（けんのう）を見（み）ました。それでも弟子（でし）たちが恐怖（きょうふ）に怯（おび）えて当惑（とうわく）するようになったのは彼（かれ）らの信頼（しんらい）を“私（わたし）たちが湖（みずうみ）のむこうに渡（わた）ってみよう。”としたイエス様（さま）の言葉（ことば）に置（お）かなかつたからです。私（わたし）たちが聖書（せいしょ）に記録（きろく）されたキリストの言葉（ことば）に信頼（しんらい）を置（お）いてその信頼（しんらい）を現実（げんじつ）に適用（てきよう）しなければなりません。

カナンを偵察（ていさつ）して帰（かえ）ってきた10偵察（ていさつ）師（し）は現実（げんじつ）の状況（じょうきょう）に執着（しゅうちやく）して信頼（しんらい）を全（まった）く活用（かつよう）しなかったです。一方（いっぽう）、ヨ・ホスアとガムレブは神（かみ）様（さま）が約束（やくそく）した言葉（ことば）に置（お）いた信頼（しんらい）を現実（げんじつ）に適用（てきよう）しました。神（かみ）様（さま）は10偵察（ていさつ）師（し）を殺（ころ）して、彼（かれ）らの報告（ほうこく）を

聞（き）いて神（かみ）様（さま）が約束（やくそく）した言葉（ことば）を信（しん）じず、恨（うら）み不平（ふへい）した民（みん）たちは40年間（ねんかん）広野（ひろの）生活（せいかつ）をしていて間（あいだ）に死（し）なせました。しかし、ヨシュアとガムレブは彼（かれ）らの期待（きたい）どおりイスラエルの子孫（しそん）たちを率（ひき）いてカナンを征服（せいふく）しました。“君（くん）の信頼（しんらい）どおりなれよ”は、イエス様（さま）の言葉（ことば）は、このような場合（ばあい）を置（お）いて言（い）った言葉（ことば）です。

“君（くん）の信頼（しんらい）どおりなれよ”は、イエス様（さま）の言葉（ことば）はイエス・キリストを信（しん）じる者（もの）たちに限（かぎ）りなく幸福（こうふく）なお言葉（ことば）です。

誰（だれ）でも聖書（せいしょ）に記録（きろく）された拘束（こうそく）の恩（おん）と真理（しんり）を信（しん）じて救世（きゅうせい）主（しゅ）イエス・キリストを信（しん）じていると奇異（きい）で驚（おどろ）くべきことを経験（けいけん）することになります。神（かみ）様（さま）の怒（いか）りや審判（しんぱん）を受（う）けて滅亡（めつぼう）することになる罪人（ざいにん）のすべての罪（つみ）が赦免（しゃめん）されるようになります。神（かみ）様（さま）の子供（こども）になります。神（かみ）様（さま）の子供（こども）になった人（ひと）は新（あた）らしい生命（せいめい）を得（え）ます。この新（あた）らしい生命（せいめい）を得（え）た人（ひと）は滅亡（めつぼう）していません。、イエス・キリストを信（しん）じれば天国（てんごく）市民（しみん）になります。こうしたものすごい仕事（しごと）がイエスキリストを信（しん）じる者（もの）に与（あた）えられている神（かみ）様（さま）の恩寵（おんちよう）です。神（かみ）様（さま）の言葉（ことば）を信（しん）じて、イエスキリストを信（しん）じる者（もの）を向（む）けてイエスが“君（くん）の期待（きたい）どおりなれよ”としています。

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

信仰で暮す人の体験談



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

信仰は大きく二つの種類で区分することができます。信仰に係わる信仰があって信仰に関係ない信仰があります。信仰的な信仰も二つの種類で区分することができます。神様に対する信仰と神様ではないことを神様で仕える信仰です。ヘブル人への手紙 11 章は神様を信じる人々が経験したことに対する記録です。彼らはイエス様の生まれる前に暮した人々です。聖霊様に対して今日の信者たちのようなふんだんな深い理解と体験を持つことができなかつた人々です。それなのに神様を向けた彼らの信仰とその信仰によって経験したことは今日私たちに立派な示しです。

今日はヘブル人への手紙 11 章に登場する人々の信仰と体験したことに対してよく見ます。

第一、信仰で暮す人は神様から正義のあるといふ認定を受けます。

本文の 4 節に “信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしてされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。” と言いました。 “より良い祭祀” と言うのは “より良いお供え” を意味します。羊をお供えで差し上げたのがより良いお供えで認められたのです。アベルが羊飼う者だから羊をお供えで差し上げたのではないです。カインは自分の趣向によって祭祀を差し上げました。しかしアベルは神様が与えられた贖いの真理をそのまま信じた。アベルの祭祀は私たちの罪を贖われるためにいらっしゃった救世主に対する信仰の祭祀でした。イエスキリストが私の罪を贖いするために十字架に釘つけられてまたその流した寶血によって私が贖われたすなわち罪の赦しことを受けたという事実を信じる人は神様から義のあるといふ判決を受けるようになります。

第二、信仰で暮す人は神様とお供する楽しさを楽しみます。

本文の 5 節と 6 節に “信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。信仰がなくは、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求めらる者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。” と言いました。創世記 5 章 24 節に “エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。” と言いました。皆さんもエノクのように神様がいらっしゃることを信仰で神様とお供してください。また神様を捜す者等に賞をあたえることを信仰で限らない賞を受けて神様を嬉しくする者になってください。

第三、信仰で暮す人は審判を免れて救いを得ます。

本文の 7 節に “信仰によって、ノアはまだ見ていない事ごとについて御告げを受け、恐れかしくみつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。” と言いました。箱舟は、イエスキリストにある者等は神様の震怒の審判を免れて救援をもらうようになるということを見せてくれる模型で影です。

イエスキリストを信じる信仰の最終的結果は救援をもらうのです。ペテロの第一の手紙に記録されるのを “あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。” (ペテロの第一の手紙 1:8,9) と言いました。

第四、信仰で暮す人は神様の約束に基づいて常識と理性を超越する行動もするようになります。

本文の 11 節と 12 節にはこんなに記録されました。 “信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなされたかたは真実であると、信じていたからである。このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海への数えがたい砂のように、おびたしい人が生れてきたのである。” わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、” (窓 22:17) と言った神様の口約束を固く信じました。そして 100 歳に息子を生むようになりました。アブラハムとサラ自分の行動を常識と理性に配置される行動だと判断する人々がいても気に止めなかつたです。結局はその信仰どおりになりました。

五番目、信仰で暮す人はこの世の中にとらわれすぎないで天国を慕いながら生きて行きます。

アブラハムとイサクとヤコブは大きい金持ちでした。それなのに高台広室を作って暮さないで天幕に居住しました。移動しやすくそうするのではなかつたです。その理由がこんなに記録されています。 “信仰によって、他国にいてようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいた。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。” (ヘブル人への手紙 11:9,10)。

六番目、信仰で暮す人は自分が世を去る時が切迫しても未来を見越しながら祝福して最善をつくすようになります。

本文の 20 節以下に “信仰によって、イサクは、きたるべきことについて、ヤコブとエサウとを祝福した。信仰によって、ヤコブは死のまぎわに、ヨセフの子らをひとりひとり祝福し、そしてそのつえのかしらによりかかって礼拝した。信仰によって、ヨセフはその臨終に、イスラエルの子らの出て行くことを思い、自分の骨のことについてさしづした。” (ヘブル人への手紙 11:20~22) と言いました。

七番目、信仰で暮す人は世の中の歓楽よりキリストのために犠牲することをもっと大きい価値で思うようになります。

本文の 24 節以下に “信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。” (ヘブル人への手紙 11:24~26) と言いました。世の中の安逸と享樂より神様を仕えて奉事するために犠牲と献身することをもっと好きな理由はその心霊の中に信仰があるからです。

八番目、信仰で暮す人は奇事と異蹟を体験するようになります。

イスラエル民たちはエジプトで解放されて紅海を渡って広野を経てガナアン地を占領するようになる過程で幾多の奇事と異蹟を体験するようになります。 “信仰によって、人々は紅海をかかわいた土地をとおるようになつたが、同じことを企てたエジプト人はおぼれ死んだ。

信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわつたために、くずれおちた。” (ヘブル人への手紙 11:29,30) と言いました。

九番目、信仰で暮す人は賢く立派な選択をします。

エリコの城のラハブはイスラエルの神様が全能な神様という事実をさとりました。そしてイスラエルのさぐり者を歓迎する決断をしました。本文の 31 節に “信仰によって、遊女ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに迎えたので、不従順な者どもと一緒に滅びることはなかつた。” と言いました。

十番目、信仰で暮す人は大きい問題に会っても胆大に対処するので勝利するようになります。

本文の 32 節以下に “このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。” (ヘブル人への手紙 11:32~34) と言いました。

十一回目、信仰で暮す人は脅威と危機に処しても一途な心の信仰を固守します。

バビロンにとりこになって来たが、高い官職に座るようになったヘブル人の青年サドラック、メサック、アベツヌゴは溶炉の中に投げられても王の金神像の前にお辞儀をしなかつたです。ダニエルは王の外に他の神様に祈る者は獅子のあなに投げこむという王の調書を見てからも神様に祈る事を廃しなかつたです。彼らは神様の助けることで溶炉の中でも無事だったし、獅子のあなでも無事でした。それによって王が神様に光栄をささげるようにしました。本文の 33 節と 34 節に “獅子たちの口を阻んだりして火の勢いを消したりして” と言いました。

十二回目、信仰で暮す人は復活を思いながらあらゆる逼迫と患難を我慢して耐えます。

本文の 35 節以下にこんなに記録されました。 “女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかつた。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、(この世は彼らの住む所ではなかつた)、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよひ続けた。” (ヘブル人への手紙 11:35~38)。極甚な逼迫とさまざまな患難の中にも喜びと感謝と勇氣に生きて行くようになることは聖徒たちが持った信仰とその信仰の上に加える神様の能力によるものです。

今までヘブル人への手紙 11 章に記録された信仰で暮した人々が体験したことを皆よく見ました。聖徒の皆さんもヘブル人への手紙 11 章に記録された信仰の偉人たちのようにありがたい体験談を皆さん生涯の記録で残すように願います。